

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示し、「町と共に歩む」グループホームを目指している。職員間で話し合い、理念に基づく運営ができるよう日々行っている。	玄関先に事業所の理念を掲示し、また、年3回の職員面談時にチェックリストを使用して職員に理念が浸透しているかを確認する等、意識付けを図っている。本年度は職員の異動が多かったため理念の見直しは行わず、従来の理念を具体化するように努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事、イベント等の参加の他、散歩や畑仕事などでの地域の方との会話や交流を行うよう心掛けている。	阿賀町の文化祭・敬老会や小学校の文化祭に参加・出品したり、地域の祭り等に参加し、交流を図っている。散歩時は地域住民と挨拶や会話をするように心がけ、良好な関係を保っている。近隣の人たちが気軽に立ち寄り遊びに来ることが出来るような関係を築きたいと考えている。	ホームでの暮らしぶりや認知症についてなど盛り込んだ広報誌を発行し、情報発信することでホームを理解してもらうことや、ホームを開放し、近隣の方が気軽に来れるような雰囲気づくりや行事を企画することを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様が他の方と同じ様に普通に生活し、暮らしている姿を見て頂いたり、感じて頂くことも地域貢献と認識している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行うことにより、施設での取り組みなどを理解して頂く他、職員ではなかなか思いつかないような意見を頂き、日頃のサービス向上に励んでいる。	地域包括・区長・法人理事長の参加で定期的に開催している。ホームから現状報告や外部評価結果の開示を行い、地域包括からアドバイスをもらったり、区長より地域の情報を聞かせてもらったり等、貴重な意見交換の場となっており、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期・不定期に地域ケア会議に参加させて頂いている。そのような機会に町の担当者との意見交換を行っている。	近隣のグループホーム・小規模多機能型事業所と結成している連絡協議会が主催し、市町村の担当者も参加する地域ケア会議に参加し、その場で市町村担当者と意見交換等を行ない、連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関等の施錠は行っておらず、職員も行動制限や身体拘束等に関して法人内研修等で理解した上で業務に当たっている。現状において身体拘束等は行っていない。	法人内研修で学ぶ機会を設けて拘束しないケアの理解を深め、また、職員会議の場で日頃のケアを振り返って話し合っている。外出くせがある利用者もいるが、リビングが職員が目が届く作りになっており、出て行く気配を見落とさない見守りができている。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修や事例検討会等を通じ高齢者虐待に関して理解を深める機会を設けている。職員の住む地域においても虐待が見過ごされることがないよう協力することの重要性についても理解できている。	年1回資料を用いた研修を行い虐待防止関連の理解浸透を図り、毎月の会議時には事例を用いた検討や言葉使い等にも問題がないかの相互チェックを行って虐待防止を職員に意識付けている。職員は利用者だけではなく、自身の住む地域にも目を向け、虐待防止に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については内部研修等を行い定期的に学ぶ機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書などを用いて納得・理解して頂けるよう十分に説明を行い契約の締結を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口に関して玄関等に掲示している。家族等が意見を表しやすいように玄関入口に意見箱を設置している。ご利用者の意見が表しやすいよう運営推進会議の出席をお願いしている。	玄関に意見箱を設置し、意見等を気軽につたえられる機会を作っている。面会時や電話の際にはこちらから問いかけ、意見が出やすい雰囲気づくりに留意している。もらった意見・要望は職員会議で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を行っており、職員からの意見を聞き取り入れ課題検討を行っている。日常的にいつでも管理者に話せるような関係性の構築にも努めており、ホームの運営に反映できている。	管理者は日頃から積極的に職員へ声をかけ、職員が話しやすい雰囲気ができている。年2回、個別面談を行っており、普段なかなか言えないことが言える機会となっている。出された意見は職員会議で全員で話し合い、業務改善につなげている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れており、職員1人ひとりの面談を行い、目標設定や達成確認等通じて向上心を持って働きやすい環境設備を行っている。人事考課等での意見や要望は各管理者が代表に報告できるよう会議も定期開催をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修の他、外部研修や事業所内部においても勉強会を行い、常に自ら質の向上を考えるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域福祉の連絡協議会に参加しており、他事業所等との交流会や研修会にてサービスの振り返りや改善、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者の入居にあたり、不安に思っていることは十分に傾聴し、安心できるまで何度も説明するよう心掛けている。また、家族とのつながりの継続に向けて働きかけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居段階に限らず、グループホームでの生活などの不安や要望はできる限りお聞きし、安心して頂けるよう説明している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、ご本人、ご家族への利用説明において状況等を確認、把握しながら必要に応じてサービスの説明を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は人生の先輩であるという認識を職員は共有しており、習わしや、郷土料理等を通じて職員は高齢者の知識や経験を学ばせて頂いている。利用者同士の支え合いを阻害しないよう皆で暮らすことの重要性を認識している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での日常生活の状況報告やご自宅での生活状況の情報提供を依頼するなど関わりを絶たないよう心掛けている。必要に応じて家族と外出する機会があるよう働きかけを行っている。	毎月家族に手紙で日々の様子や受診時の状況を報告し、情報共有に努めている。支払いは出来るだけ家族に持参してもらうようにして、ホームに足を運んでもらい、利用者と共に過ごす時間が出来るように工夫している。来所時にはゆっくり過ごしてもらえよう、配慮している。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な場所や知人、親戚の方々との交流を絶やさないように来所された方には伝えたり、連絡するなどしている。ただ周りの方も高齢化してきているので自ら町に出て行ったりするなど、関係を途切れないように配慮している。	入居時に家族等から馴染みの人や場所の聞き取りをして把握し、その情報を基に関係継続に努めている。友人や親戚が遊びに来た際には「また来てください」と一声掛けたり、希望者にはいきつけの美容室へ連れて行く等、関係が途切れないよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置や孤立しないようにする為、皆さんでできる作業などをすすめるなど、様々な働きかけや配慮を行っている。ご利用者同士が助け合い、支え合いながら日々の生活を送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用や契約が終了しても関係を断ち切らず、直接ご本人やご家族とお会いしたり、現在の状況をきくなど継続的な付き合いを大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時ご本人から聞いたり、話し合ったりして希望、意向の把握に努めている。ケアプラン作成時に本人の希望、意向を把握してケアプランに反映している。	センター方式を活用し、利用者がその人らしく暮らし続ける支援に向けて、本人の思いを一番とし、日々の何気ない会話の中から大切な情報を拾い上げ把握するようにしている。把握した情報は申し送りノートに記入し、全職員で共有している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用したアセスメントを取り入れ活用している。1人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	傾聴第一に家族より本人のバックグラウンドに関する情報を把握している。小さな事でも聞きのがさず全体像を知る様、全職員がこころがけている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用してのアセスメントで利用者一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、有する能力等の現状を把握して、ケアプランに反映させている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や適時カンファレンスを行い課題検討やケアの方向性を話し合い、日々の関わりの中での意見や意向を介護計画に反映させている。	利用者の状態変化時や家族の要望、意見のあった場合、関係する職員全員でカンファレンスを行い、利用者の現状に即した介護計画となる様、見直し・評価を実施している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施と結果、気づきや工夫を個別の記録に記入し、情報を共有しながら実践したり、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、その時々々の要望に応じて、併設短期入所生活介護施設、併設通所介護施設や地域資源の活用に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等に協力を求めたり、相談するようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるようにしている。	希望があれば、かかりつけ医で受診できるようにしている。健康ファイルを作成し、職員や家族が受診時の状況を記入し、医療に関する情報を共有し、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員に体調の変化があるときに、情報提供し、相談しながら医療支援を進めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際はできるだけ早期に退院できるように、メディカルソーシャルワーカー等との情報交換や相談に努めている。入院、退院のために病院と連携している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される前に意思確認を行っている。入院等で体調の変化があった場合にも随時確認しながら支援している。グループホームで行えることについても同様に入居前や入居中でも説明しながら支援している。	入居前の意思確認に沿って、ホームで出来る範囲のケアをしている。隣接するショートステイに看護師がおり、緊急時には援助してもらえる。協力医との連携体制も出来ており、家族と協力し随時意思を確認しながら、取り組んでいる。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修時などに定期的に緊急時の対応についての研修を開催している。昼夜問わずいつでも冷静に対応できるよう学んでいる。	ホームでは急変や事故発生を想定しての研修を行っている。職員は初期対応の応急手当が、いかに大切か認識しており、ケース想定の上、勉強会は繰返し行っているが、救命訓練等は行っていない。	座学だけではなく、行政関係者や消防署等の協力をえて、救命訓練(心肺蘇生やAED、異物除去、止血法等)を実施し、いざという時にも落ち着いて対処できるよう、実技訓練を行う事が望まれる。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定、夜間想定、併設施設との合同避難訓練やグループホーム単独訓練等、安全に避難できるように訓練を定期的に行っている。	併設施設との合同訓練を年1回、ホーム単独訓練を年1回、計年2回の昼夜共に想定した避難訓練を実施し、万全が期されている。自治会長や地区住民にも参加を呼びかけ、地域の協力が得られるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない言葉掛けや高齢者への敬意を忘れないように留意している。カンファレンス、職員会議を通して確認しあえるようにしている。	年長者として敬意を払い、馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応にならない様傾聴に注意し、言葉使いも逸脱しないよう、全職員が注意しあいながら人権意識を徹底している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せるように働きかけたり、理解、納得できるよう何度も説明を行い、自己決定をして納得しながら暮らせるよう本人の意思を確認しながら介護している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切に、時間などに囚われず、ご本人がやりたいよう自由にやって頂いて利、ご本人の意思を確認しながら支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望、意向により理容、美容室行っている。日常の衣類もご本人がタンスやクローゼットから好きな物を選んで頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	いつの間にか役割りが決まっており、配膳する方、米を研ぐ方、お茶を入れ配る方、食器を洗う方など様々である。調理の準備の際は職員と話し合いながら作業をすすめており1人ひとりの能力の維持になっている。	献立・調理は職員が一週間づつ交代で作っている。利用者の好みや苦手なものを踏まえてメニューを工夫し、時には当日にメニューを変更して対応する事もある。食事に関する一連の作業は得意な利用者と共に職員が行い、行事時にはバイキング形式にしたりして、食事が楽しいものとなるよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士に相談しながらご利用者の状態に応じた食事内容や栄養バランス、季節の物や塩分など検討しながら食事の支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず歯磨きの声掛けを行っている。居室でやる方、ホール内の洗面台でやる方、など個々の能力に合わせて習慣的に実施している。歯磨きが不十分な方には介助したり、うがい薬でのうがいなどで口腔内の清潔保持を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おおよその排泄パターンは把握している。できるだけ自力で排泄して頂けるよう早めに声を掛けたり、定時のトイレ誘導など1人ひとりに合わせて支援している。	トイレでの排泄は身体機能向上・生きる意欲に続く大切な支援と心得て対応している。主としてチェック表を用いているが、表情や独特な行動から察し、さりげなく誘導する等、自立に向けた支援を心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、食物繊維の多い食材や乳製品などの摂取、体操等に取り組んでいる。個人差はあるがおおよその排泄リズムは整っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの希望時間や希望日など、職員の都合に合わせて利用者に合わせて入浴の提供を行い、お風呂を楽しんで頂けるようにしている。	利用者の習慣やニーズに合わせて希望に添う様に支援している。拒否時は職員を変えたり翌日に入浴してもらうようにする等、柔軟に対応している。しょうぶ湯や入浴剤などで入浴が楽しみなものとなるよう工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、その時の状況や体調、習慣などで休みたい時には好きな時間に安心して休息できるよう環境の整備を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について職員間で情報を共有して服薬支援に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴や能力、力を活かして、調理の準備やお茶入れ、配膳、掃除など担当してやって頂いている。レクリエーションやドライブなどの外出、外食などの支援にて、気分転換して頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の希望のある方は職員と一緒にいけるよう支援している。ご自宅の様子などが気になる方は家族と連絡をとり、可能であれば家族の方と一緒にいけるように、家族が無理なようなら職員が代わりに一緒にいけるよう支援している。	気分転換やストレス発散の機会として短時間でも戸外に出る機会を作り、貴重なチャンスとし日々の中で活かしている。散歩・花見・自宅周辺のドライブ・買い物など努めて出かけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望、能力、ご家族の同意の下、お金の所持や使えるよう支援している。その他は預かり金として施設側が管理して必要に応じて援助している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人がご家族、親戚等に電話を希望された場合は本人に電話を掛けて頂くか、職員が電話を掛けつなぐたら本人に替わるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内、テーブルの上、壁面などには季節に応じて装飾を変えたり、行事の時に写した写真やレクリエーションで作成した作品などを貼っている。植木などもホール内に置き水やりをして頂いたり、植物に触れることによりリフレッシュして頂いている。	ゆったりしたソファのある明るい居間には季節の花が飾られ風情も感じる。左・右に置かれたソファは編み物グループおしゃべりグループが楽しそうにくつろいでいる。人慣れた猫が飼われており、利用者の癒しとなっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビングの他に、視覚的に個別空間となりうるよう区分した場所を配置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のご家族が相談をして居室内の飾りつけやタンスなどの配置を行っている。ご自宅から使い慣れた物や思い出の物も持ってきて頂き、本人が落ち着け、居心地のいい生活環境になっている。	居室には大きなクローゼットが備え付けられ、利用者が入居前まで大切に使い生活して来た物を持込んでいる。プライバシーを大切にしながら使い慣れた馴染みの物を傍に置き、自宅との環境のギャップを感じさせない工夫がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などは分かりやすく工夫しており、居室なども能力に応じて装飾品などで目印をつけ自立した生活を送れるようにしている。また、定期的に行うやすいか、分かりやすいかを確認し、その都度改善をしている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない